

整理+整頓

資源ごみの行方 —プラスチック製容器包装—



正しい分別でリサイクル率を上げよう

作業員が手作業で不適物を除く

「ごみの出し方が間違っているため、一日に4〜6トン収集するプラスチック製容器包装の約1割はリサイクルできないのです」という野津場長

プラスチック製容器包装は、川向リサイクルプラザ（竹矢町）に搬入されます。資源ごみピットで貯留した後、破砕機で収集袋を破り、手選別コンベアへ送られ、作業員がリサイクルできない不適物を取り除きます。不適物を除去したものは機械で圧縮、梱包し一時貯留した後、再生品を作る業者に引き取られ、道の駅などの床材や棒杭、プランターやハンガーなどに生まれ変わります。

私たちが資源ごみとして出すプラスチック製容器包装は、どこへ集められ、どのように再生品へと生まれ変わるのか、川向リサイクルプラザの野津秀一場長に話を聞きました。

「生ごみ、包丁などの刃物、家庭用医療器具が入っていることもあり、中でも一番多いのはペットボトルで、月に400〜600キログラムも出ます。新型コロナウィルス感染症の影響か、昨年6月ごろから使用済みのマスクやティッシュペーパーが増え、一日で45リットルのごみ袋一袋分も出るほどです。作業員の感染防止のためにも、マスクなどはもやせるごみ袋で出してください。ルールを守ってごみを出すことが大事です。一人一人の心がけがリサイクル向上につながります」と話しました。

（吉野由紀記者）

プラスチック製容器包装で出せるもの

- ・プラマークがついているもの  ※中身を使い切り、汚れを落とす



プラスチック製容器包装で出せないもの

品 目	出し方
ペットボトル	リサイクルステーション
<ul style="list-style-type: none"> ・材質はプラスチック製でも商品の包装や容器でないもの（歯ブラシ、洗面器、ストロー、コンパクトディスクなど） ・中身が残っているもの ・汚れが落ちにくいもの（歯磨き粉・マヨネーズなどのチューブ類、ラップなど） 	もやせるごみ

エコタウンまつえ



●発行日
2021.2.1

●編集
エコタウンまつえ編集室
(松江市環境政策課)

●E-mail
k-seisaku@city.matsue.lg.jp

●TEL
(0852)55-5278

●FAX
(0852)55-5497

社会を動かすエシカル消費

エシカル（倫理的な）消費とは、生産者や地球環境、地域社会のことを考慮して商品を購入し消費することです。

世界に目を向けると、SDGs（持続可能な開発目標）が注目されています。市では、島根大学教育学部と島根大学教育学部附属義務教育学校が連携し、エシカル消費に関する授業が行われました（写真）。

その授業では、唐揚げ弁当の購入を題材として、自分が弁当を選ぶ際には何に気をつけて購入するか話し合い、発表しました。この授業を計画した鎌野育代教授は、「自分の消費が環境や不平等、格差などの社会につながっていることを知ることができる」と、エシカル消費教育の意義について語りました。多くの生徒はエシカル消費を知らないため、授業冒頭では自分の好きな弁当を選びます。しかし、食材の生産地や容器の素材など弁当の背景を学ぶことで、授業後にはエシカル消費に基づいた選択ができるようになります。



今後のエシカル消費について、鎌野教授は「教育に即効性はなく、時間をかけて影響を与えます。地球の問題は人間が解決する他になく、消費は社会を動かすため、新型コロナウイルス感染症により生活が大きく変化した今、消費について見直す機会である」と、思いを語りました。

（白石悠人記者）

「きれいら」ってなに？



城西地区「松江市環境保全推進員」の代表である酒向武さんは、岐阜県高山市の出身で、縁あって城西地区に定住しています。

酒向さんは6人の推進員とともに、城西地区のリサイクルステーションの点検を毎週実施しています。

主に地区の人が利用する場所は規程通りの捨て方をされていますが、車通りが多くて駐車でき、人通りの少ない県立図書館前や公民館横には、ラベルが付いたままや、中が汚れたものが目立ち、レジ袋も残されていて困っています。地区外の人が通りがかりに捨てていると思われる。市への報告は当然行いますが、状況によっては箱の修理やお礼の張り紙なども実施しています。

城西地区は空き地や草地が少なく、ポイ捨てがほとんどありません。毎日地域外までウォーキングをしています。草地や人通りの少ない場所には道路上までポイ捨てが多く、危険な場所以外では拾っています。

酒向さんは軽トラックを買い、知人の刈った草木をエコクリーンに搬入するなど行動的である一方、夜空の星を眺め、「きれいな」とロマンチストな面もあります。

「推進員や地区住民・

公民館は協力的で、行動しやすい環境にあります。地区以外の活動にも積極的に参加し、松江をますますきれいにしたい」と酒向さんは語りました。

（折田昌弘記者）



新人記者紹介

吉野 由紀



10年ぶりに再び市民記者をすることになりました。市民目線で、環境についてのいろいろな情報をお伝えできればと思います。心機二転、頑張ります！

白石 悠人



島根大学教育学部3回生です。出身は大田市です。趣味は写真を撮ること、メガネを飼育することです。「エコタウンまつえ」を通して皆さんに情報発信をするともに、私自身も松江についてさらに知ることができていることを楽しみにしています。